



# ヤジ馬

最初の一馬

1972・5・23

大阪市住吉区対田町8-95  
和芳荘18号

久保利明



馬脚  
ウマのアシ

## 改題「変身」から

### いななき始め 「ヤジ馬」へ

個人紙「変身」を出していたのだが、あまりにも評判が悪いのと、子供が「ヘンシン」などと呼んでは死んでしまふ、そして表面だけ変身したくんに変身という言葉が使われてしまふと云う様なものがあつたので、改題したからと云ふ、マ内密がよくあるというものでもないのであるが、この際、ペン直しの筆で「ヤジ馬」という題に改められた。試みた「ヤジ馬」の字義を正確に探検し、次のように書かれていた。

ヤジのまゝ、弥次馬・野次馬の馴らしたくんに馬強し悍馬。また、老馬。一説に「おヤジ馬の略で若い雄馬ともいう。②自分に関係のない事を人の後に「してわけもなく騒ぎ回すこと。また、その人誠に結好な言葉で。自分に関係のない事を、アアでもない、コウでもない、あげへつら、あげくの果てにオウチョコウイに動き回すなどは、他人様など関係ない、ひつこみ思索のまかり通す今の世に真に必要な水着の性格ではないかと思ふ。アッには関わりのネエ事でゴザンス、などと云つても結構何らかの関わりを持つ、又は持たされるよりも、最初から「マンタ何やってんの?」ソレおもつて、うちもよせて」と積極的かつ無責任な姿勢で関わりを持ちに行く方が、コッポド人間として素直ではないか。このみち人間他人様との関わりなくして生きて行けないのだから。

積極的かつ無責任な姿勢とは簡単に云えば不マジメといふことである。現代では、マジメに考えないと行動する周囲からよってたかって気遣いに干渉してしまふ。かの赤軍をよみ、彼らのキマジメナはマスコミ・政府によって狂気とされたではないか、ナカ、佐藤栄作・ニクソンのいかわり国を思ひ出すマジメは私にとって狂気ではない。彼らは、カ

「あつたにオウチョコウに指摘されただけなのだ」  
「ニカラ近々、私の云う、ヤジ馬像を明確ならしめる為には、ヤジ馬」とその他の言葉と対比させて考えて見よう。

### 「ヤジ馬」とデバ電の近親関係

デバ電はいわゆる「変態」に対する愛称として使用されることが多い様であるが、このデバ電に端的に表わされているスケベ的好奇心は、ヤジ馬の擁する積極的かつ無責任な兄弟・姉妹の関係にある。なぜならば、スケベ的好奇心は、歪曲された(性欲)の現われをなしているといえ、自己の欲望の純真な追求の姿であり、抑圧に対する一種の抵抗である。ヤジ馬の積極的かつ無責任な姿勢も、ムリヤリに隠されてしまったもの、チャカシてはならないとされているものに対してハッキリされるものである。

ヤジ馬は、デバ電とヤジ馬は、権力によって隠されてしまったもの、自分の方に取り返さうとする。隠されてしまったもの、自分の本にサシテたさうとする。弱者の努力であることと云う共通の目的がある。相違点としては、デバ電が自分だけが隠されてしまったものをカイマみて「ウウエ、ヒィ」と楽しむだけであるのに対し、ヤジ馬は隠されてしまったものを拡大して、外に向かつて騒ぎ立てることに楽しみ、喜びを見いだすという点がある。

デバ電は外から与えられるキマジメナに押しツプされた好奇心であり、ヤジ馬はかろうじて不マジメナを維持している好奇心である。

### 「ヤジ馬」と負け犬は無関係

負け犬とは、何かにキマジメに闘いをいとみ、その結果相手の自己より劣者なことを確認してシッポを巻いて強者の前から逃げたしたものであり、一度負けた闘犬は二度と使いたるにあらぬのと同じく、一発勝負の後にはただただ負け目を感じ、再度の挑戦をアキラめグチの中に生かすものである。いかりの負け犬の遠吠えというのは、このグチのことである。

負け犬は、闘う前には自己を過大評価し、負けてからは不自然な自己卑下を行なう。ヤジ馬も、ヤジ馬のイナナキになるものを有し、一見負け犬の遠吠えに似ている様に見えるが、質的に似て非なるものである。ヤジ馬がイナナキの場合、負け犬の様に相手と一発勝負をやって、ギャフンと云われ、しかる後相手の前から逃げてイナナキではなく、相手の強いのを充分認識した上で、馬・仲間の群の中でコソコソ、大きな音で、仲間にはハッキリわかるようにイナナキのである。それは相手の前でイナナキかないからと云って、勝負を避けるものではなく、闘いを引き延ばすものでもない。イナナキの一声一音が負けを知らない挑戦であり、闘いそのものなのである。持続的なイナナキは群全体のイナナキを導き出しうる。キマジメな、ヒステリックなイナナキは仲間をもオビヤカすだろう。キマジメなあくまで馬道者のものではない。

### 三、ヤジ馬と自連の関係は、

五月初めの連休中に、自連が廃刊するというのが様子を見に来た人々にAアジトで会った。その人がヤジ馬として来たのかどうか定かではないが、私はヤジ馬的要素を多分に有していたと思う。私が今まで行かなかったAアジトへ顔を出したのも、自連が廃刊するAアジトで、その廃刊前の様子をソソキたい、どの上にもレベルのを見たいと云う純粹ヤジ馬的執求に引込まれたからであった。今までにもホウの人がヤジ馬的に自連を訪ねて来ていた様子がそれらの人は、根がマジメであったために、又自分のイナナク場をもっていた。固定して考えていた論に、訪れる自己と訪れられる自連とを区分し、その区分のウチ内ではか、自連対△△△としてしか自連と接触してはならないのではなかろうか。この自連と自連訪れられる自己を区分し、キマジメな程に相手と、等身として接触するということ体質が、自称自連社員の出現を防げ、編集社員と読者の固定一受けとり手としての読者の立場の固定一を生みだしたのではなかろうか。キマジメなが、自連社員と自称するものを防げてほしい。そして、自連系、自連系、その時君は……、キマジメなが、キマジメなを拡大再生産してはならないだろう。自連社、か誰

かたなしに、社員証を発行するくらいのもマジメが必要だったのではないだろうか。今、僕は、社員なのであろうか、などとキマジメに考へて、必要なのでなく、ただのヤジ馬として積極的「自連」に関わることが必要だったのでなかろうかと思う。そして今、自連廃刊前夜の今、ヤジ馬としての読者は、積極的かつ無責任に関わりを自連に求め、スキではなかろうか。なぜなら、そのがツブレル、出来ぬと云う時ほどヤジ馬の興味を引く時はないのだから。

ヤジ馬と、無責任かつ不用意にイナナキころではないか。各地で、自連廃刊記念読者会を開催する旨自連めてに投書しよう。各地自連を無責任に作り、廃刊する自連で紹介してもらおう。そして、それらの提案には、積極的かつ無責任に参加しよう。

今、自連編集社員の中で、廃刊記念読者会を開こうという動きがあるようです。ご期待。

ヤジ馬の締めくくりに、キマジメの……ヤジ馬の特徴総覽

- 一、興味本位に行動するのは云々、……の興味の対象こそ水で自己を集中でスキの無責任を有する。
  - 二、群を好みは云々、その群の中で独自性・自己を保てる。
  - 三、なんのお祭にも顔をツツ、みだがる。しかも思っただけでなく、オレ、オレ、オレに参加したか。参加する資格など云々云々には無頓着である。
  - 四、何々云々によらず、あらゆることを、拡散・人に知らせたがる。
  - 五、ヤジ馬としての自己を、……、た面であれ、価値があるとかないとか考へる冷静さを持ち合わせていない。いわゆる厚顔無恥。
- 以上読まれた方は、自分にも少しぐらいはヤジ馬質があるナ、と思われたかと思えます。少しつけ加えれば無責任・無責任といっても自己に対しての言質ではないし、興味の対象に対してでもない云々云々です。では何に対して無責任かと云うと権力・権威に対してです。ヤジ馬の皆さん、いろいろな事を知らせて下さい。出来れば、限り拡散されますから。